

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2012年2月)

発表日2012年4月9日(月)

～経常収支は黒字に復帰。先行きも黒字基調を保つ見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 大塚 崇広
TEL : 03-5221-4526

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			所得収支
					貿易収支	サービス収支	
11	1月	5,478	12,952	3,490	3,685	▲ 195	10,442
	2月	17,008	12,444	3,716	4,865	▲ 1,149	11,050
	3月	17,386	9,423	▲ 1,285	530	▲ 1,815	11,329
	4月	4,239	5,778	▲ 6,039	▲ 4,649	▲ 1,390	12,598
	5月	5,744	3,498	▲ 7,498	▲ 6,314	▲ 1,184	11,930
	6月	5,389	9,593	▲ 1,077	36	▲ 1,113	11,660
	7月	10,537	8,282	▲ 2,239	▲ 580	▲ 1,659	11,385
	8月	4,363	6,990	▲ 3,985	▲ 2,057	▲ 1,928	11,800
	9月	16,107	10,283	▲ 1,120	226	▲ 1,346	12,250
	10月	5,339	4,700	▲ 7,551	▲ 5,365	▲ 2,186	12,734
	11月	1,261	5,178	▲ 5,910	▲ 4,054	▲ 1,856	12,246
	12月	2,657	6,997	▲ 4,306	▲ 2,439	▲ 1,867	12,422
12	1月	▲ 4,373	1,352	▲ 7,564	▲ 6,976	▲ 588	10,274
	2月	11,778	8,541	▲ 2,642	▲ 425	▲ 2,217	11,560

(出所)財務省「国際収支統計」

○ 2月の経常収支(原数値)は黒字に復帰

2月の経常収支は原数値で11,778億円の黒字と、ほぼコンセンサス(11,200億円、レンジ:6,600億円～12,980億円)通りの結果となった。原数値でみると、1月は貿易収支の赤字が拡大したことを背景に09年1月以来の経常赤字となったが、2月は貿易収支が黒字に転じたことで経常収支全体としても黒字に復帰した。1月の経常収支の赤字は、①毎年1月は経常収支の黒字が減りやすい(赤字になりやすい)ことや、②1月の輸出が中華圏での正月のタイミングのずれにより押し下げられたこと、といった特殊要因の影響が大きく、経常赤字は一時的との見方が大勢であったことから、2月に黒字に転じたことに意外感はない。むしろ②の要因が2月の輸出を押し上げる方向に働いたことで貿易収支は黒字に転じ、経常収支全体の黒字を押し上げることとなった。

貿易収支は原数値でみれば黒字となったとはいえ、季節調整値では依然として赤字が続いている。②の要因で攪乱された12年1月と2月の貿易収支の平均値は▲3,701億円と、10-12月期(▲3,953億円)とほぼ変わらない。海外経済の減速などで輸出が伸び悩むなか、原発の停止に伴う輸入燃料の増加と資源価格の高止まりが輸入を押し上げる構図が続いている。

○ 貿易外収支の内訳

貿易外収支の内訳を季節調整値で確認すると、サービス収支は▲2,217億円と前月(▲558億円)から赤字幅が大幅に拡大した。振れの激しいその他サービス収支が赤字に転じたことに加え、旅行収支や輸送収支も赤字幅が拡大している。旅行収支については、支払は増加し受取は減少している。支払の増加は出国日本人数の持ち直しなどの影響によるものと考えられよう。受取の減少は訪日外客数の減少が影響したものと思われる。訪

日外客数は、1月に旧正月で中華圏から日本を訪れる外客数が増加した反動減で2月は前月から減少したと考えられよう。輸送収支の赤字の拡大は、支払の増加が要因であるが、これは旧正月の影響で2月の輸出が反動増となった影響が大きいであろう。

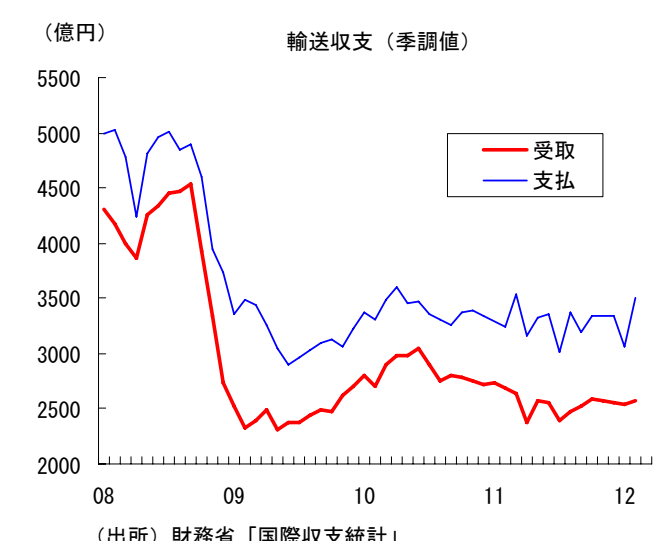
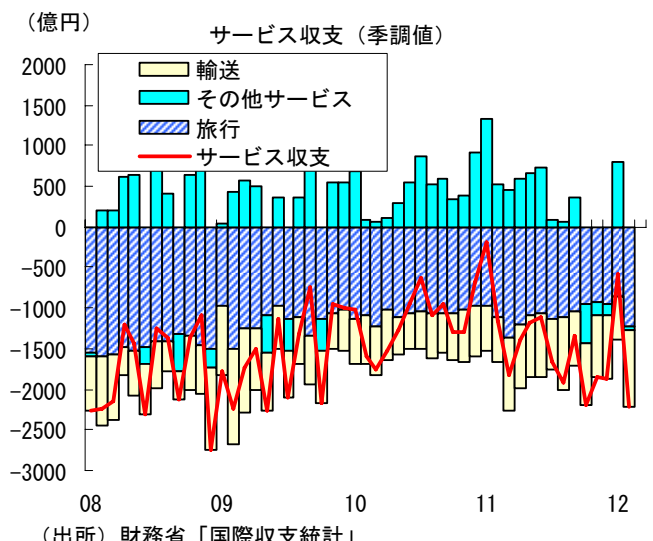
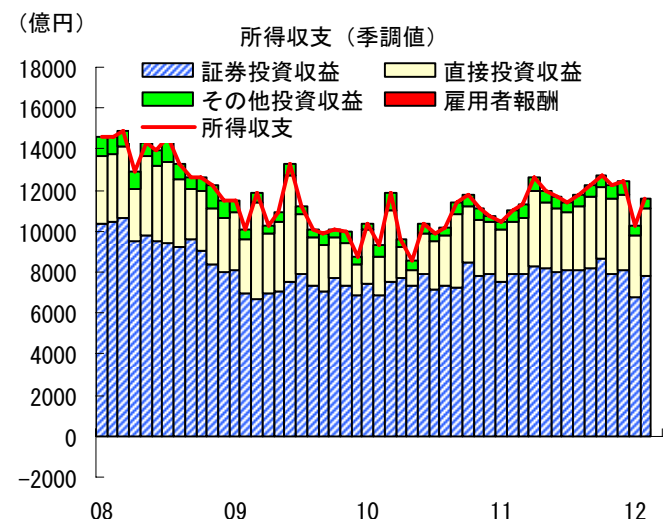
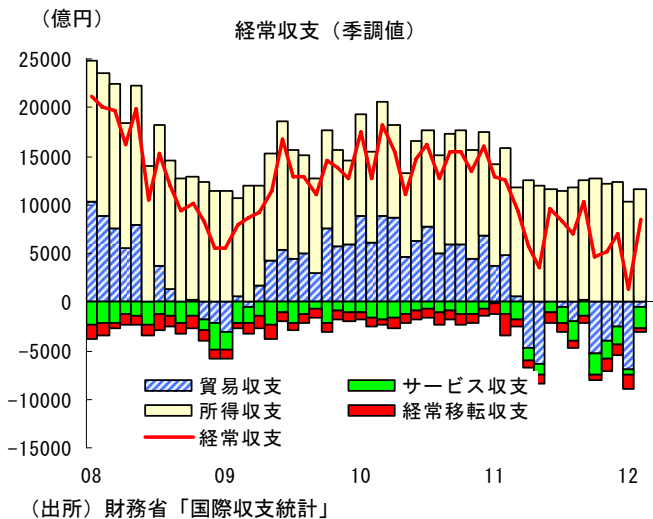
所得収支については、ウェイトの大きい直接投資収益と証券投資収益はともに前月から増加し、引き続き高水準を維持している。

○ 先行きも、経常収支は黒字基調を保つ見込み

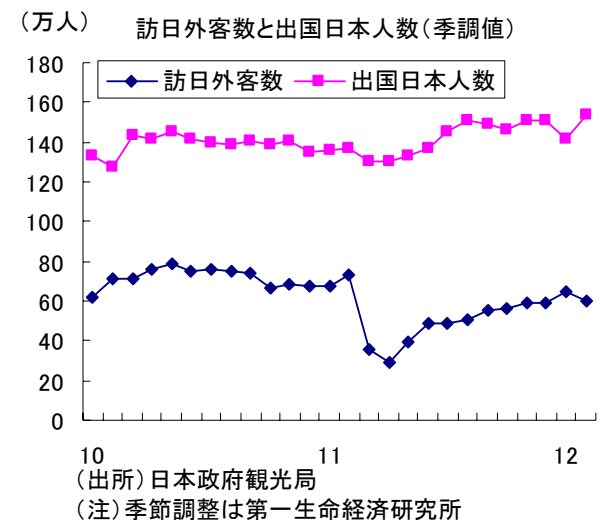
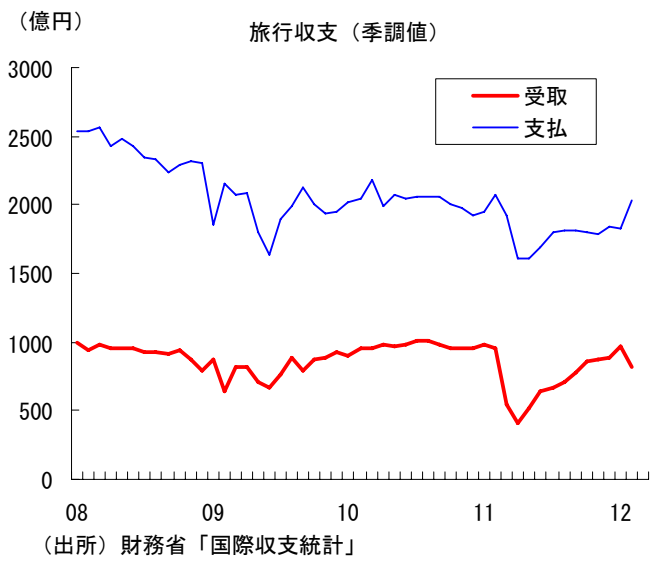
先行きについても、経常収支は黒字基調を保つ可能性が高い。これまでのように貿易収支の赤字を高水準の所得収支の黒字が支える構図が続いていくであろう。

貿易収支については、原発の停止に伴う燃料輸入の増加や中東情勢の緊迫化などで高止まりする資源価格を背景に、今後も輸入は高水準となる可能性が高い。一方で、輸出は海外経済が徐々に回復するにつれて持ち直す公算が大きい。したがって、貿易収支の赤字幅は徐々に縮小するとみられるが、黒字に転じるにはまだ時間がかかりそうだ。

他方、所得収支の黒字は今後も高水準を維持する可能性が高い。豊富な対外純資産から得られる収益は今後も高水準を保つことが見込まれることに加え、日本企業の海外進出も所得収支黒字を拡大させる要因となろう。したがって、経常収支全体としては今後も黒字基調が続いていくと予想する。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。